

第23回アーカイブ研究会

講師
細川周平

講師は以前、国立民族学博物館にて「植民地主義と録音産業―日本コロムビア外地録音資料の研究」(平成十七〜十八年度科研費)に参加して、録音のアーカイブ化に携わった経験、日本最初の円盤録音として知られるフレッド・ガイスのビッグ録音のCDボックス制作に関わった経験を持つ。今回は日本の初期録音史を振り返り、アーカイブ化の意義について考えます。

日本の録音史

1860年代〜1920年代



2018. 10. 11(木)
17:30 - 19:00

場所：京都市立芸術大学芸術資源研究センター／参加無料・申込不要

【講師プロフィール】

細川周平 音楽学者。国際日本文化研究センター教授

主な著書：『日系ブラジル移民文学 2 ―日本語の長い旅 [歴史]』2013、『日系ブラジル移民文学 1 ―日本語の長い旅 [評論]』2012、『民謡からみた世界音楽うたの地脈を探る』2012、『速きにありてつくるもの―日系ブラジル人の思い・ことば・芸能』2008、Karaoke Around the World: Global Technology, Local Singing (三井徹共編) 2001、『シネマ屋ブラジルに行く』1998、『サンバの国に演歌は流れる』1995、『レコードの美学』1990 など。



問い合わせ先：京都市立芸術大学芸術資源研究センター事務局 TEL: 075-334-2217 Mail: arc@kcuu.ac.jp <http://www.kcuu.ac.jp/arc/>